●本誌は世界主義を標榜して婦人解放を主眼とす

世界婦人

○本號目次

△發行一週年の感	福田英子
△縁起の惡るい話	松堂狂禪
△女子の學費	安部磯雄
△中山みさ子	木下尚江
△農科と理科	増田操
△隣りの長屋	藤なみ子
△「追放」に就て	小野吉勝
△伊藤中將森通觀	内山愚童
△新紀元晩餐會	小野生
△人格先生	堺利彦
△口吻餘滴	神川松子
△海外時事	
△海内時事	

◎次號に長谷川二葉亭氏の寄稿あり

發行一週年の感

福田英子

世界婦人の第一回誕生日が參りました、アヽ感慨多き此世界婦人よ、吾は此一年間に於て此一小雜誌が如何なる苦悶と教訓とを吾に與へたるかを記念して見たいと思ひます。

或時吾は斯く語りき、アヽ誤てり吾は此雜誌經營のために、殆んど十年の壽命を縮めたり、斯くして聊かなりとも吾が同情を裨益せしや、如何に、且つ吾は尚八十三歳の老齢を重ぬる、實母と未だいとけなき三兒をも肩上に荷へり、そを物質に泣かしめて迄も吾は世の同性に警告するの義務責任を有せりやとの疑問を發せり、然るに或婦人は曰く、さすればあなたより私い事業の方が成功なりと誇られき、或は其言の如けん、現代の物質萬能主義より立論すれば其言は痛切の言と云はざるを得ずして、此主義よりすれば金港堂夫人の如きは最も此の稱の婦人等が理想の人なるべし、作去、ては個人各々の嗜好する趣味如何に因る事にて事に利得收入の多寡によりて、成功、不成効を算すべきものに非ずと信ず、特に主義主張あるもの、趣味としては、金港堂夫人的の成功は、吾等が渇仰憧憬する理想には非るものを、かるがゆへに、吾、如何に煩悶するも現代に於ては主義の鼓吹と經營上の矛盾は到底免れ難く、眞に忠孝兩全の難きを悟り、中途策も算盤も擲つて、暫し默想に耽りし事も幾度なるかを知らず、アヽ實に弱き愚なるものにて侍るなり。

吾は發刊の辭に何をか申せし、學識なく、才能なく加ふるに、失敗に失敗を重ねたる罪多き、恥多き身を以て敢て此大事業を企つるに就に嗚呼我間敷いが、退いて考ふれば小さいながら覺束かながらに、此事業を經營するが、眞に吾が使命と思はれるとの意を發表しました、此意氣ありしがゆへに斯くも大膽不敵の盲目蛇的行動も出來たのでしやうが、餘りの窮迫に遭遇しては頼るべなき吾の、さすがに悄然として厭世感も起り、前言を食んで遁世の念も起るのですが、凡そ女子の通有性たる怯懦に純るの醜態や虚榮に充滿せる品性陋劣の行爲を目撃しては、早く同性を自覺せしめたい、奴隷根性を打破したい、男子の專横に對しては早く此惡習慣を破壞せざればとの好奇心は亦勃發し來りて、熱血が煮へかへるのです、斯くして終に此一週年を迎へたのです、其實際を申せば、毎日廣告を諸商店に貰ひに行かねば雜誌の印刷代が不足ですし、知らぬ商店へ行けば、初めはお得意様かと莞爾として挨拶せらるゝが廣告掲載の事に及ぶや俄かに「センブリ」を飲んだ顔つきで、其態度も一變し横柄高慢怜も雇人を奴隷扱いにすると一般に吾等にまで、是を應用せらるゝなり、斯の如きをも、吾は其忍ぶべきは尚忍ばん、されど斯くして迄も尚發行繼續の價値ありやと、發行毎に其煩悶は筬り來りて、一層の惱みを覺へ、幾把る事も吾は常に眼睫の間にて同性間を裨する如き興を起らず毎號下らぬ申譯的の駄文を草する事の御恥かしさです、さりながら幸に毎號諸先輩の御寄稿ありて頗る同性間を裨益せられ數千年來の迷夢を打破せらるゝありて此發行趣旨の徒爾ならざるを信ずればこそ斯くも種々の苦悶を繼續し得るので愛讀者諸姉よ少しは此誌によりて精神的の慰安を得玉ひしや、如何に、亦少しは修養向上の心を起し玉ひしや、如何に、若し一人たりとも此指導ありてとの自覺者を得ば吾が煩悶と寄稿者諸氏の御滿足は如何計りぞ、吾は此誌を愛讀者諸姉に聞ひたき明答を得ん事を渇望に堪へず、斯くして一週年の發行經過を研究して見たいと思ひます。

新聞紙の喇叭的報道や針小棒大の毀褒貶や世界丸呑的の大法螺と異なり一週年の祝日に際して斯の如き泣き言のみ連ぬる事の面目なさ、さりながら結局現代婦人の地位境遇を顧れば樂觀鼓腹の時ならずして此泣言こそ世界婦人の現代に對する痛切の感興ならんと信ずるがゆへに、いつもながらの不文を、ものし侍りぬ。

縁起の惡い話

松堂狂禪

元日や神代のことも思はるゝ

元日や晴れて雀のものがたり

など、云ふ句があるが之は實によく穿つたものである、つまり新年と云ふものは何事もすてゝ、只泰平と云ふことを意味してるのであるぞ、昨日までやれ裁判だ、やれ訴訟、やれなんだと塵の生活をして居つたのが、今日に限つて何事も皆わすれて終まつて泰平の時となるから祝ふのである、つまり蘇生とか復活とかの事であるのだ、それであるから、

元日や昨日の鬼が禮に來た

と云ふ川柳があるのである、そうだ此一日だけは僅かに黄金時代かも知れぬ、極樂時代かも知れぬ。

それであるから此日に限つて縁起のわるいことは云はぬことにしてある。

然し、狂禪少しく異議がある、何かと云ふと、何もかも解からないで騒いで居るからである、何故門松を立るか、何が注連縄を張るか、狂禪大に問責せざるを得ないのである。

昔し一休和尚が元日人骨を杖の先きへ指して「門松は冥途の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし」と云ひながら往來をあるいたと云ふが、これもまたチヨツト變つた趣妙である、殊に杖の先きの骨がおもしろいぢや。

全く考へて御覽、ロングフエローの詩にもある通りに「人間の心臓は葬祭の太鼓の如くドン〳〵と冥途をさして一歩々々墓所へ近いて行くのである」元日に立てる門松はたしかに冥途の旅の一里塚ではないか、死の迎いが一歩近いて來たのである。

噂する中に過ぎけり花盛り

蝶々や咲いて散るまで一眠り

誠にそうぢや、くだらぬものぢや、此間に遭遇して居てもがいて居るとは何と云ふ大馬鹿ものであろう、それであるから面白い川柳がある。

元日の義や誠は去年義

さて一休の門松は冥途の旅の一里塚と云ふのは獨り抽象的の詞では無い門松と云ふものゝ、本意がそれなのである、なぜと云へば門松は元來支那で始めたもので之は墓所の目標なのである、昔しから松や柏はよく墓所へ植えるのである其生長の具合を見て吉凶を判ずるのである、狂禪が松堂と號するのも「松と云ふ字は嬉しいことよ、公さんとのさしむかひ」と云ふ粹な意味でもあるが、一つは之れぢや、莊子曰く天寒うして而して松柏の茂るを知ると、堂は本堂の堂ぢや、おまけぢやて、松に縁ある目標ぢや「私は太田の金山生れ外にたつ樹は松ばかり」とくだらね、へヽヽ。

○注連縄は印度のものぢや、鳥居が印度の門であると同じやうに、之は印度で死んだ時の新しい墓へ縄くものぢや、それであるから神道では墓所へ必ず之をまくでは無いか、之を知らないで目出度いものだと云ふてる奴の馬鹿さ加減が解からぬ、それて注連さは七五三と書くでは無いか、之はどうしてそう讀ませるのだ、シメとは首を縊めることでは無いか、シメ縄とは首を縊める縄である、七とは死地、五とは誤、三とは散、散財をして誤つて死地に入る、而して七五三加へて十五、十五は重誤では無いか。

○七福神の七が第一に死地で縁起が惡るい、七福神中の布袋は梁の時代の契此と云ふ乞食坊主、福祿壽、壽老人は星の事だ、其希望や遠きことゝ星の如く遂に達すべからずさの義では無いか、惠比須は須佐之男命の兄蛭兒とて生れて三歳に足て立たざるが故に舟に乘せて放つた不具物、流人、辨天は印度河の神、大黑天は印度の神、毘沙門もそうだ、つまりバラモンの神さ、何がめでたいのだ、それから歳德神とは何だ、宇賀神と云ふ印度の神で其體は蛇だ、蛇が歳德神なんと馬鹿々々しいでは無いか。

○それであるから世の中の馬鹿者どもが縁起とか何とかふてるのはつまり縁起のわるい話、何なのである、一休の如きはなか〳〵おもしろい話せる奴ぢやて、骨を杖にさすこれが面白いのぢや、試みに何處かへ鹿爪らしくおめでたうとはいつた時に、赤いリボンの廂髮か、島田髷か、挨拶に出てごろうじろ。

まじめな顔して出會つた年始

添う日の稽古をする心

など、乘りきになるかも知れぬが、更に三十棒を加へて懲せよ。

上に添ふ肉には誰も迷ふらん

まくれば同じ骨の身にして

と思ひ來たつた時はいやはやつまらなくなるさ、狂禪新年の句に曰く

骨が出て笑顔を作る年始かな

骨だ〳〵、骨々怪事、是を什麼哦、

●女子大に讀むべく男子盛んに讀まざる可からず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○女子の學費

安部磯雄

教育といふものは利益を目的として受くべきものではないが、教育の結果が利益となることは事實である、二千圓の金を投じて株券や公債を買つて置くよりも、其金を子供の教育費に宛て、置けば一層多くの利益が得らるゝのは明である、今日に於ける男子教育の盛なることは勿論流行といふことにも因るのであらうが、其最大理由が利益といふ點に在ることは爭ふことが出來ない然るに女子の教育は如何なる利益を與ふるのであらうか、換言すれば女子を教育したる結果父母はこれに依りて如何なる利益を得るのであらうか若し利益といふことを標準としたならば、女子教育は最も算盤の取れないものであると言はねばならぬ、我國の女子は人に嫁するといふのが普通の事であらう、父母は娘の教育費として巨額の金を支出したる後、更に少からぬ支度料をも費さねばならぬ、故に父母が利益の考へを以て子供を教育する間は容易に女子教育の隆盛を見ることは出來ないと思ふ、女子にも高等教育の必要なることは玆に論ずるの暇がない、男兒に高等教育を施すの資力ある人は亦女子にも同程度の教育を與へねばならぬ、世には女子に高等教育を與ふることを好まぬ人があつて、高等なる教育は却つて女子を高慢ならしむるなど言ふのであるけれども、これは單に表面の議論に過ぎない、若し其根本を討究すればつまり經濟問題に歸着するのである、露骨に言へば女子の高等教育は男子の其の如くに利益を父母に與へないのであるから、其結果世人に重要視されないのである、若し女子にも相當の財産がありとすれば、女子教育に對する思想に大なる變化を來すに相違ない、

我邦に於ては女子に財産を分與するの風が行はれて居ないから、女子の高等教育の爲に費す學費は全く父兄のポッケットより出るのである、從つて父兄は女子の爲に學費を出すことを何となく惜しく思ふ樣になる父が其財産を女兒に頒つ場合にも同じく彼のポッケットから出るには相違ないが、既に其財産を頒ちたる以上は、其内より相當の教育費を仕拂ふことは左程苦痛と感ぜらるゝものでない、どうせ女兒に頒ち與へたものではないか、これを財産として置くが宜いか、將た亦彼を教育して其財産を身に附けて置くが宜いか、斯く考へ來る時は如何なる人も其女兒を教育して置くが遙に安全であると考ゆるに相違ない、財産は時によりて消滅するの恐があるけれども身に附けたる教育は一生涯なくなるものではない此道理を考へさへすれば、何人も女子教育の重要なることを悟るに至るのである、されば女子に高等教育を授くるの可否を論ずるが如き、其表面は如何にも理屈ありそうに見ゆるけれども、其内部を考ふれば一の經濟問題に過ぎない、若し女子にも財産を分配するの風習なるに至らば、女子教育の隆盛は期して待つべきである、

海内時事

●露國汽船と革命黨

長崎より革命黨員を乘せ浦潮に至りし露國汽船モンゴリア號再び當地に歸港す船長以下の免狀を沒收し解雇の上假船長を乘せ一等運轉手は乘客の内より補缺せり他は無事なるも實際乘組の過半は革命黨員なり然れども一時に解雇せば補缺なきため其儘となしありと

●詐僞で學問

▼藝妓に貢がせて卒業

醫學士上條幹治なるもの曾て大學生たりし時千葉縣那古町の料理屋上總屋の酌婦中村菊枝(目下本所區菊川町二ノ六ノ六居住卅七)と通じ卒業の後は正妻となすべしとの條件にて菊枝に藝妓稼ぎをなさしめ其貢ぎを受けて修業したるも卒業の後は之を捨て顧みざりしより元東京日出新聞社員神田區紺屋町卅二番地佐藤知光、日本橋區蠣殼町二丁目五番地武田市治の二名は、兩人の間に入り菊枝をして幹治より五十圓を得せしめたる事件は恐喝取財となりて東京地方法衙の審理に上り去日公判あり檢事は知光、市治兩名の有罪を主張し添田外二名の辯護士は被告が菊枝の權利を遂行せしめたるものにて罪とならずと辯護せりとあゝ、都下幾百の大學生が婦人の虚榮心を利用して如何に醜行をなし又爲しつゝあるかは吾人之を枚擧するに遑あらざるべし、前に某々大學教授ありて世の非難攻擊を受け、今又破廉恥の行を見る、眞に心情の陋劣言語に絶す天下無に優ろの鈍物徒らに文明の機關を濫用して自己一身の獸性を恣にし、而して世と人とを詐僞し了せんとする其の淺間しさ寧ろ憐むべきなり、今日帝國大學に學ぶ忠實なる幾多の幇間奴隷中、如斯きの人物其の多きを占むるに至りては、教育も亦一種の詐僞に過ぎざる可し、

●やまと新聞

菊版新聞にして而して物品を包むに最も便利なるやまと新聞に左の如き記事ありたり

文賊露見

本社去る十七日の紙上に、發表掲載したる第四回懸賞作文第二等當選「我家の富」と題する文章は、

千葉縣長生郡鄕五村早野
鶴岡せつ子(二十歳)

なるもの郵送提出したる所なり、然るに此文章は、四五個所の文字を變易したるのみにて、「自然と人生」と題したる德富蘆花氏の著書中より、竊みたること明白せり、因て其賞を與へざるは勿論、玆に其氏名を揭出す、而してその剽竊最先の發見者、

東京市本郷區向ヶ岡彌生町三番地
桂川外次郎氏

は、十月十七日午前八時九分を以て、其文の剽竊に出でたることを、本社に告知したるを以て、規定に隨ひ賞與を受く可きものとす、(但し本文章の剽竊を發見告知したるもの此他に十六通あれども之を略す)

此新聞にして此の讀者あり瓜の蔓に茄子の生ざる亦宜なるかな、文運鼓吹て美名の下に懸賞文を募りて新聞紙の發賣部數を殖さんとす、之れ一種の盜策なり、投機なり剽竊必ずしも怪むべきに非ず寧ろ當然のみやまと新聞懸賞應募者は宜しく剽竊文を投稿すべし、彼等の投機的根性を矯正する唯一の方法ならむ。

●ルーヂサック　匿名者

ルーヂサックとは市川高麗藏を指して呼ぶ新聞記者の附したる代名詞なり、彼の非行問題は爾來東京俳優組合顧問齋藤孝治氏に依て調停することとなり居りしとは過般報道したる如くなるが、頭取山本榮次郎副頭取寺島榮之助評議員松尾猿次郎、澤村訥藏、[illegible]次郎、市村錄三郎(寺島に委任)等出席し評議員會を開き齋藤孝治氏より左記の如く調査の結果を、告し且つ申合規約を議し午後六時頃散會せり、

報告書

組合員市川高麗藏氏が一身に關する風說並に新聞の記事に就て調査を遂げたる所同氏に不倫の行爲ありしと云ふ事實に就ては是れを認むるに由なしとす

右報告候也

十二月十六日　齋藤孝治

東京俳優組合頭取山本榮次郎殿

申合規約

組合員にして不品行の行爲又は當組合の面目を傷くしたる行爲ありと云ふ不實の風說世評若くは新聞雜誌の記事ありし時は各自に於て速に其究の方法を講ずべし事若し重大なるに於ては評議員會を開き委員を置き調査を爲すことあるべし

●文部省當局と歌留多遊び

「近時社會風敎の頽廢に伴ひ男女學生の墮落に陷るもの多きを加ふるの傾向あるを以て文部省は豫てより之が原因救濟策等に付き種々調査をなし居れるが其原因は無論種々雜多なるも既報の如く彼の歌留多遊びの如きは靑春の情緒燃ゆるが如き男女學生が膝を交へて勝敗を爭ふものなれば此機會が動機となりて墮落に陷るもの無しとせざるを以て此際一般學生に限り之を取締るの可否に就て目下種々協議中の由なるが省内に於ても絕對に之を取締るべしとの硬派と之が斷行は宜しく家庭に一任すべしとの軟派との二派に岐れ居れども風紀問題は借て置き學科に多忙の男女學生が此種遊戲のため時間を徒消して自然健康を怠るが如きは一般學生のため惜むべき事なるを以て結局は各種の學校長(重に中等程度の學校)に訓諭を發して之によりて生ずる弊害の除去に務めしむる事に決すべしと文部省當局者は語れり」文部省當局も流石に現今の社會の頽廢を自覺し之れに伴ふ學生の墮落救濟策として力を歌留多遊びに用ゆるは少々滑稽の極と云ふ可し、若し如斯くにして其の弊害を除去し得るものとすれば、吾人は先づ文部大臣閣下に慫慂す、男女學生の手[?]を嚴密に取締むべしと

●社會主義婦人講演會

一月十五日午後二時より神田三崎町三ノ一社會新聞社ニテ開會男女傍聽隨意會費不要

辯士

演題未定　添田竹子

理想と現實との矛盾　西川文子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

海外時事

世界に於ける婦人撰擧運動

英國に在りては、普通新聞の評論者と筆その婦人選擧運動者等が活氣ある花々しき働き振りには多少注目して居る、又一千九百〇六年、ノインランドに於けるその勝利にも興味を催して眺めて居た（素より此の運動の世界の大勢なぞは、恐らくは知らないのだ）此の運動の飛躍せる有樣は、『北米評論』の九月號でアイダ、ニュースチツド、ハアパー女史によりて紹介せられた（女史は『十九世紀末婦人選擧運動始末』の著者にして、此の運動の歴史家及びその贊助者として普く知られて居る「現在此の運動の關心は英國にある、その最も著るしい勝利はフインランドのだ、現に同國の議會には十九名の婦人議員の席がある

米國に在りては、勿論打ち勝つべきものではあるが、他國に比して餘程困難な、紛亂したる地位に居る

こゝに世界的の運動として、此の問題を注意させた二つの重要なる事がある、即ち千九百〇四年の萬國婦人同盟會の集會と、千九百〇六年コーペンヘーゲンに於ける萬國婦人選擧運動同盟會の集會とである、萬國婦人同盟會は、世界各國の有力なる婦人凡そ七八百萬を網羅して居るが、嘗て『吾々婦人も代議政體の存する國にては男子と同等に被撰擧權を有す』と決議した、故に十四ケ國に於て此運動は組織的であり且つ攻勢であつて、新聞紙はそれが鼓舞喧傳のために發刊せられて居る

ニュージーランドに在ては、千八百九十三年以後、男子と同一の權利を得て全く解放せられた

濠洲に在りては、千九百〇一年以後、全聯邦の被撰擧權を得て、國會にも椅子を有するに至つた

顧みて歐洲を望めば、先づ奇異の感に打たるゝものがある、かの二共和國即ち佛蘭西と瑞西とに於けるこの運動の大勢だ

ヘアパー女史はこれを評して

佛瑞の婦人撰擧運動の進行は他のいづれの國よりも遙かに劣る

然れど佛國に在りて、婦人に政權を與ふることを確固に否定して居る、彼の正教徒はこんなことを云ふて居る

「たとへ婦人に被撰擧權を與へたつて男子の手中にある教會に干してすべて平等にふるまひはしないだらう、そして國會は政教分離を決行しがたくなるだらう」と

『ネザーランドに在りて、此の運動は組織的で且つ進守的だ

『デンマークに在りては、一年程前コーペンヘーゲンに於て開かれた、萬國婦人撰擧運動同盟會によつて非常に刺激せられたが實際の所附他のスカンヂナビヤの諸國よりもおくれて居る、且つそのアイスランド殖民地のよりも遙かに劣つて居るのだ

獨逸に在りて頃者、有力なる政教主義の新聞が『教會法は婦人解放を否定するものではない、却つて社會上及び經濟上の發展として大いに望んで居る所である」と云ひ出した、かの優勢なる社會黨はこの運動の有力なる援助者である

露西亞に在りて、政事上これが要求の叫びは、婦人の全階級に鋭い、殊に農家の間に最も熱烈であるが、然しツベルの三村に住む、農婦が國會に送つた請願書ばかり驚くべきものはない、彼れ等は婦人も男子と同等の權利を有すべきであると云ひ遣つた「吾れ等は常に打たれさいなまれぬ、さあれ、こゝ神の御名のため、一致協力以て萬事に方らんまでぞ、吾れ等は我れ等の夫と同じ主權者を戴く今や吾れ等の夫は吾れ等のために法律を認めつゝあらざらんや」と

ノールウエーに在りて、婦人はその所得額に應じて政事上の自由を得た

スウエーデンに在りては、たゞ地方的に自由を得て居るが色々な方面から見るに、スウエーデン婦人は政權に關してノールウエー婦人よりも餘程遲れて居ると云ふのではない、英國に於ける此の運動の趨勢はよく分かつて居る

ヘアパー女史の言に從へば

婦人撰擧運動者等の要求は數年の中に容れらるるであらう

日本に在りて其の進行は上流社會の婦人達によつて飾られて居ると

印度に在りては教育ある非火教婦人の間に中々熱心な運動者が居る

ペルシヤですら教育ある婦人は、近頃設けられた代議政體の被撰擧權を請願して居る

ヘアパー女史曰く『二十世紀の當初、世界の各方面に起つた改良或は革命の多々ある中で此の世界的運動程顯著なものは類を見ぬ、これ即ち彼れ等の生活條件に付隨する叫びではないか』と

他の英帝國に起れる此の運動の大勢を述べて見よう

マンの島に在りては、千八百八十一年以後寡婦や處女も總ての役人を撰ぶことが出來る樣になつた

南亞弗利加に在りて、近時、政界に婦人を撰擧する樣子がある、新宰相ボサ將軍は強くこれを主張して居るが、本國の國會は「南亞弗利加に於ける英國婦人は斷台に値少である、されば斯の如きは却つてボーア人に非常なる利益を與ふるものである」と云つて許さない、だから南亞弗利加ではナタール婦人だけが、地方的に解放せられて居る位のものだ

加奈陀の九州に在りて、寡婦や處女は多年、黨派を有し或は地方的に選擧權を得て居つた、北部地方では、總ての婦人が男子と同等に此の兩者を具有して居る

絶對的解放論者には有力なる黨派があつた、が然し近年まで堅實なる組織を確定し得なかつた、先年各派の解放論者等が一の代理委員を定めて新宰相に、政事上解放案を提出し彼れの盡力を期待した、彼れ等は議事堂に於ける辯論家やトロント市長、大學總長、或は多くの名士によつて援助せられた、宰相は彼れらに一彼れ等は個々の權利のある所を要求して居るが彼れ等の地位は永久に變らない、そして、この企てを變へんとこゝろむるが如きは政事家たるもの、取らざるところである」と保留した、カナダに於ける最も有力なる婦人國民同盟會は政權平等に干して一の常務事務所を設けて、婦人選擧會と事務を共にするであらう、今英國本土に於て婦人が全く解放し得られたとすれば、カナダ殖民地は到底これを拒むことは出來ない、殊にかの全き解放を得たる濠洲やニュージーランドにくらべたつてさうぢやないか

米國に在りて婦人は獨力以て戰はねばならぬ、男子の道德上、資財上、政事上の助けはない

さハーパ女史は曰ふて居る且つ加へて

其の權利を得るに米國は他の國に比して至難にして且つ複雜なるものである、他國ではたゞ議會で贊成者が大多數を占むれば勝利を得るのである、合衆國では四十五の議會があつて、それが先づ問題を決議する、此の時多數の議員が賛成すれば、これを國會議員に委任するのだ）地球上いかなる國だつてこう云ふ事情の下にある婦人にして解放を得んことはむしろ疑問に屬する、合衆國婦人は主として斯かる事情からして他のいかなる國にもおとらず、むしろより烈しく、より長くたたかつた、だから今は四ツの州で全き解放を得て居る、こゝには疑ふべくもない、男女兩性間に高尚なる公共的感情がいや增して最後の勝、斷乎期待の確然たる基礎が既に見える、さればとて合衆國が文明國の中で婦人が一票を政事上に與ふる最後のものであるとの思ひは米國婦人の國家的名譽心を興奮するものではない、米國に於ける此の運動に付てはまた他に論據を設けねばならぬか」と

○●世界各國婦人の趣味

▲佛國の婦人は文學、繪畫、音樂、交際等に趣味を有す、殊に甚しきは文學の影響にして彼等の生活は全く詩人文士に依て支配さるゝが如き觀あり、新著出れば直ちに之れを購讀し、其作中の人物を摸し、言話風彩まで一變して交際社會の模樣を擬らんとする習慣婦なりと

▲英國婦人は慈善事業、繪畫、音樂、文學、教育等に對する趣味に富む

▲獨乙婦人は文學、繪畫、彫刻、音樂、科學にして其中最も趣味を有するは音樂、繪畫なりと

▲露國婦人は國狀の異なるが如く、流石に其趣味も他國の婦人とは全く一變し、彼等の競ふて研究せる學問は、哲學、文學、科學、音樂等にして露外國人の思索の能はざる明晰の頭腦を有す、殊に文學の盛なるは世界第一にして萬國の有名なる文學は殆と露語に飜譯されざるはなし、世界の文學を研らんと欲するものは大いに露語を學ぶ可きなり

▲米國婦人は歐洲の婦人に比すれば遙に劣等にして、其の趣味、傾向の異なれる到底同日の論に非らざるなり、彼等の多くは比較的自由の地位に置るゝも、心情粗暴にして黃金は彼等の全生涯を支配しつゝあるとは、米人自らの告白なり、而して黃金の爲に肉を賣るの敢も快活なるは米國婦人の特性なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

中山みき子

木下尚江

予は今ま彼女を傳せんとするにあらず、評論せんとするにあらず、只だ聊か景慕の情を寄せんと欲するのみ、

彼女とは天理敎の敎祖中山みき子なり、日本の中、今や天理敎の名を知らざるもの無し、然れども其は尊敬の意に於て知らざるに非ずして、嘲弄輕蔑の意に於て普く知らるゝなり、然れども之を嘲弄輕蔑するもの、必ずしも天理敎の何たるを知るに非ず、彼等は天理敎の何たるを知らんとだに思はずして、最初より只だ之を嘲弄輕蔑す、

天理敎の敎祖中山みき子は一個の妖婆として傳唱せらる、妖か魔か且らく問はず、兎にも角にも彼は女の中の偉大なるものなりき、天理敎徒は皆な無學文盲の輩として賤めらる、無學と文盲とは乞ふ且らく之を問ふ勿れ、彼等も皆な人なり、皆な靈能の人なり、而して幾百萬の男女をして其の身も財産も一切を献げて神女と崇敬せしむる中山みき子は豈に輕々に嘲弄し去るべきものならんや、

中山みき子は妖婦に非ず、彼は詐欺師に非ず、彼は愛の人なりき、切愛の人なりき、極愛の人なりき、彼女は我身に神の宿るを信じたりき、而して此の確信は實に彼女の愛の生む所なり、彼女の愛を知るものは彼女の信仰を疑ふと能はず、彼女の奇蹟を疑ふと能はざるべし、

私有財産を人類生存の第一基礎となす所の法律觀よりすれば、釋迦も基督も皆な國家の罪人なるが如く中山みき子も亦た正に一個の犯罪者なるべし、然れども中山みき子は人生の深き奥義に接觸せり、彼女は我身其物が實に我物に非ずして神の物なることを體得せり、「我物」と言ふ所の觀念其物が即ち實に人生罪惡の種子なることを了解せり、彼女は祖先傳來の家産を盡くして之を鄰人に分配せり、彼女の夫善兵衛は或夜一刀の下に彼女を斬つて棄てんとして、却て彼女の爲めに說服せられたり、己を棄て、隣を愛するの活模範は吾人實に中山みき子に於て之を見る、

天理敎を信ずるものは彼女の奇蹟を信じ、天理敎を嘲るものは又た彼女の奇蹟を嘲る、獨り天理敎に於てのみならず、何れの宗敎に於ても奇蹟は信ずるものゝ爲めの門にして、信ぜざるものゝ爲めの躓き石なり、然れども愛と信との力を知るものに在りて奇蹟は毫も奇蹟にあらざるなり、基督は數々奇蹟の理を說明して「汝の信仰汝を醫せり」と曰へり信の力は飛ぶ鳥を落とす、走る馬を止どむ、流るゝ河を斷つ、月の廻轉を制す、是れ正に然るべきの事なり、學理は事實の說明のみ、事實其物を動かすと能はず、故に奇蹟の如きは寧ろ枝葉のみ、

彼女は九十歳にて眠れり、而して其の死する前年の冬まで警察の留置場に、却て己を迫害するものに向て、諄々として其の道を說けり、

吾人が天理敎に於て特種の趣味を感ずるとは其の敎祖の婦人なるが爲めなり、吾人は基督の敎に於て、何處とも無く獨身者の影を見るが如く、中山みき子の敎に於て人の妻たり人の母たる圓滿なる女性の和氣に接す嘲けらるゝとは彼女の恥辱に非ず、嘲けられまじとて世の輕薄に投合するとを努むる彼女の後繼者こそ、彼女を尤も辱かしむるものと言ふべし、

中山みき子は日本が生みたる女の中に於て偉大なるものなること、毫も疑ふべからず、

◎社告

ありて甲斐なき心地こそすれ、皆様方の御同情に甘へて、かくは此の十二ヶ月を辛くも押し渡り候ひしが、何分にも吾等の如き細き運命の綱を頼り居候身の、世の煩らひは益々繁く、生活難は吾を驅つて、他に糊口の途を求むべく餘儀なくせられ候間、無已本誌の發行を毎月壹回五日と相定め紙面を十二頁に増加致し一部代價金六錢、十部代金五十五錢、二十部金壹圓等と御申込は總て前金の事と致し郵税は當方持と斯く決定致し候間、何卒衷情御推察の上舊に倍し御愛讀の程願上候謹言

○尚是迄に前金御拂込の諸氏には第廿貳號より計算可仕候に付き左樣御諒解被下度候

○世界婦人初號より取り揃へ候分御入用の御方は早速御申込み被下度當方郵税持にて最近號まで八十錢にて宜しく候

農家と理科（七）

増田操

人間はこの世に生れたら生活に必要なるものを取る權利がある空氣も要る日光も要る水も要る誰でも自由に取るべきもので決してこれを妨げてはならぬ、ところが人は生れるからには宙にブラ付いては居られぬ、土地の上に居らねばならぬそれに食はねばならぬ着ねばならぬイヤ人間ばかりでない空を翔ける鳥でさへ樹木に巣を營み之に憩ふではないか魚鼈の如き水に游泳するもの其水や地上に巣するでないか獸や窟に蟲や穴に凡そ天地間に生とし活けるものは皆な住に依らざれば食に必らず土地を離るゝことは出來ない、云ひ換ふれば土地は人の家を建る所である衣を給する所である食の產する所である其衣食や土地に作らねばならぬ、而も現代經濟制度に於ては土地には空氣や日光や水と違つて地主と稱する先に生れたる一部のものが占有して居るから、小作米と稱する地代を出さねば土地の使用をさせぬことゝなつて居る、すると天から生活の權利を授かつて生れながら其生活を妨げられ彼の日光や空氣の代價を取られると同樣何と不都合な話でないか人は手と足と付いて生れるからには働くべき筈に違いない働かない約束で生れたとすれば手足が付いて居る筈がない働くべき筈なのに働かない贅澤ばかりに暮して居る今日の地主は一種の蕩坊である可憐なる小作人は、こんな無駄な人間を養ふ費用と政府の費用と二重の租税を拂つて居る樣だ、そこで其土地を地主から一般の人間に返知さし、生れた人は誰でも住んで食物や衣服の原料を作つて好いことゝしたいこれ吾人の理想である以上說く所一寸脇道に反れましたが兎に角衣食住の三者は人生に至大の關係あるものである、

諸君が着らるゝ所の衣服の種類は澤山ありと雖とも其原料は何れも木綿、絹、毛の外には殆んどない布を縫ひ合して使用するものなれども其前に絲にして、各〳〵細き絲筋の數多集まりたるもので其絲筋を纖維と名けてこれを續ぎて絲となり織つて布と稱するのである、纖維はこれを大別すれば植物性動物性、鑛物性の三種である然れど鑛物性纖維即ち石綿の如きは衣服に使用し難い吾人の專ら使用するは植物性、動物性の二類である、植物性纖維とは木綿、麻等にして動物性纖維とは絹及び毛類である、

木綿は諸君の知らるゝ如く錦葵科植物で其種類に依つて多少性狀を異にし永年性のものあれども通例一年生にして長一二尺許の草本である美大なる花を開らき俗に蛉又は桃と云ふものを結ぶこれを蒴と稱するは三個乃至それ以上の隔室ありて其內部の角に種子を着く種子生長するに從ひ其表面に生ずる綿絮は發育し種子の基部に於て短く頂部に於て最も長し綿絮は種子の表皮細胞の下にある厚膜細胞組織より發生して數個の細胞相連り其隔壁も表皮細胞も共に纖維の發育に伴ひ漸次吸收せられて一の纖維を形成すると云ふ、綿絮は開綻の後日光及び空氣に曝露し乾燥して成熟し遂に撚捩したる扁平管を呈す、未熟の纖維は薄くして撚捩することなく品質劣等である試に此本の纖維を取りて其長さを檢すれば綿の種類に從ひて長きものは平均一寸二三分短きものは七分許、直徑は三毛六糸より六毛五糸の間である更らに檢微鏡下に照せば一個の螺旋狀となり其切口を見れば一個の管狀にして扁たし斯く螺旋狀を呈するを以て絲にて撚りたる時は能く卷き合ひて絲をして強からしめ從つて細き絲を作り得るものなり其紡績器械に掛けて絲となす絲の太さは番號にてこれを定め重量一ポンド即ち我百二十一匁にて長八百四十ヤード即ち我が二千五百二十尺なるを一番とし同じ重量にて長さ此二倍なるを二番と云ひ重量同一にして長さ二十倍なるを二十番と云ふ其幾手と云ふもこれと同じく二十番の絲は二十手と云ふのである、

麻類には大麻、亞麻、苧麻、黃麻、摩尼剌麻などの種類がある何れも一種植物の皮にして刈り取りたる後皮を剝ぎ粗皮其他の雜物を去つて製するものであるが其纖維を顯微鏡に見るも木綿の如く螺旋狀のものにあらずこれを手にて撚り又は紡績器械に掛けて絲となる、

大麻は桑科に屬せる一年生植物にして高四五尺乃至一丈餘に達し雄本雌本の別あり纖維の性質粗剛、柔軟の性に乏しきも光澤に富み纖維に堪ゆ雄本は雌本に優る、帷子、蚊帳、網、綱、麻袋、ヅックなどに製られ其用途頗る多い、

亞麻は亞麻科に屬する一年生植物にして纖維は細長く美麗に其性柔靱光澤に富み紡績し易く織物となし肌衣の類に用ひらるリンネルと稱するはこれである其他卓布レースなどに用ゆ其種子より搾取したる油を亞麻仁油と云ひ乾性なれば印刷墨其他工藝上に用途多く其粕は家畜の飼料とし又肥料となす、

（未完）

吾が八十二歳の母上は、巨燵にあたりながら、吾が朝餐を喫するを見て斯く〳〵の玉へり

飯は芳し　農夫の汗
湯は温し　推夫の涙

次號目次

前號に發行一週年を重ねた御披露致しましたので同情諸兄姉より續々御寄稿下さいましたから經濟が許せば紙面を擴張して今回だけでも廿頁位にしたかつたのですが何分微力の私ですから、よう〳〵十頁で御免を蒙る事に致しました、因つて次號には長谷川二葉亭先生の深刻なる短篇物を御紹介する事に致しますと同時に殘念ながら一號に廻しました分とを爰に御詫びながら御紹介致して置きます

△題未定　長谷川二葉亭
△二人姉妹　赤司繁太郎
△對新平民觀念の地理的現象　みよしの
△小說「不義の子」　西川さつき子
△犧牲　岡野活石子
△親友　増田
△孝行の意義（續）　大石鎌亭生
△追放に就て（續）　小野吉勝

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人格先生

堺利彦

『世界婦人』の正月號には屢々の諸君子から打揃つて執筆さるゝ由なれば、小生如き下劣の輩まで御用を仰せつかる事はあるまいと思ひ居たのに、それでも矢張り山の賑ひにはなると見え、頻りに御催促を蒙るに依り、風引の寐床の中にて、據んどころなく筆は取上げたるものの、扨何を書かうやら題目の思ひ浮べられぬに困る、て、まで書いて考へて居る中、フト世間で善く云ふ『人格』と云ふ事に就て少しばかり論じて見たくなつた、

抑々人格とは何ぞやと云ふが如き七六がしき問題は、小生の一向存せざる處なれど兎にかく世間には頻りに人格を振廻す一種の人間がある、他人から見て、あの人は人格が高いと云ふのなら、小生などには善くは分らぬながら、何となく床しくも聞えるけれど、自分から盛んに人格呼はりをやられては、實以て恐縮の至である、

小生は男子であるが、假に小生が獨身者であつて、女房を探すとした所で、そんな人格婦人など真平御免だ、本誌の讀者たる未婚の婦人諸君よ、忘れても人格先生の令夫人などに為り玉ふな、

小生は斯んな話を聞いた事がある、或人格先生の仰せられけるには、アンマリ人が繁々遊びに來るのは困る、人は遠くから見られるに限る、餘り側で見られるとアラが出てイケナイと、

成程、諺にも『遠いが花の香』と云ふ事がある、『夜目、遠目、傘の内』と云ふ事もある、然しそれは餘所から見てチヨツト床しいと云ふ丈の事で、自分から人に善く見られたいが為に、人に遠ざかると云ふのは何うしても人情では無い、

こんな先生は女房や親兄弟に對しても常に身づくろひをして居るに違いない、心の底を打明ける友達ナント云ふ物は一人も無いに違ひない、そんな衒氣の多い、隔のある、拵物に何の頼もしい所があるか、何の懐かしい所があるか、

尤も昔から女の嗜みとして、寢様を男に見せるなと云ふ事がある、是は女たる者は男に仕へて、常に男の機嫌を伺ひ、其の心を損せざらんことを是れ勉むるのであるから夜は男より遲く寢ね、朝は男より早く起き男の目を覺す頃には早や既に化粧をして、髪もチヤアンと捲きあげて、總て取亂した姿、しどけなき姿を見せぬ様にせよとの意味であらう、

小生などはコンナ細君は真平だ、何時も〳〵取繕つて、餘所行の顔付ばかり仕て居られて堪る者では無い、是は全く娼婦の心得である、謂ゆるアラを隱す者である、一日こそ、二日こそ、それでも面白く過されるか知らぬが、夫婦と云へば永い交際だ、そんな馬鹿くさい事で情が寫る者では無い友人の交りとても同じ事、面を隱つて居る奴に對して、真の暖味を感ずる筈が無い小生の最も親しき友人の中に、謂はゆる人格先生など一人も無い、

全體、夫婦だの、友人だのと云ふ者は、其の赤裸々をさらけ出して、瑕瑜共に現はると云ふので無くちやならぬ、アバタも笑窪とさへ云ふでは無いか況んやソバカスホクロの類など、何の遠慮に及ばう、互に缺點、弱點を知盡して、猶且つ棄難き趣きがあるので、それで始めて真の夫婦、真の友人ではあるまいか、よしや甚だしき缺點弱點のあるものも、それを悉くさらけ出すに於ては、其のさらけだしたと云ふ點に於て、亦た一種棄難き趣きを生ずる者である

そこで小生等は、人格呼はりの諸先生に對しては、之を聖人君子として人間以外に於て、謹んで敬遠致す次第である、

人格先生之を見て評して曰く、人格の低い奴の議論は實に下劣で讀むに忍びぬ、

口吻餘瀝

神川松子

情炎と云ふか狂亂と云ふか、自分の胸はとかく亂れがちで、いつも何かあるものに憧れて居るやうである。秋の夜を沢い〳〵冥想に耽つたり、枯野の病葉に寂寞の思をやつたり、月の光を怨んだり心情はいつも憂愁深きシベリーの谷に陷つて居るのである。

心ある友は自分の狂熱を恐れていろ〳〵と沈靜悟脱の道を忠言してくれる、切羽詰つては宿命論も聞かされる、黴臭き塞翁の馬も持ち出される、だか何物も一向に我が胸に効能はない、今は寧ろ如斯世俗的忠言を好まないのである。

實際人生悲哀な影を胸に宿して世と人とにそむき、幾多盟契の友に捨てられてわれ獨り幽寂の思に泣く時省みれば二十二年のとしははや夢の間に過ぎた、今は新春の風に對し心胸は實に無量の感に堪へない。

幼少の時吾をはぐゝみし我が母は今日のわれありとは思はなかつた、夢にも恍惚とするやうな令孃として將た所謂女らしき女として我が子の成長を祈つたのである。獨立や自由の精神のない我が姉等を生育つた母は、腕白なわれを見て何と思つたであらう、幼少の時から自我意識の強い、頑強な自由の精神の最も高潮に達した自分を見ては、我が父母は何と思つたであろう。成長して彼の鬼神お松のやうな惡漢にならなければよいがとは、常にわが父母が懸念な吾を祈つてもらす歎息の聲であつた。

かくて自由の子革命の魂は今日のわれあるに至らしめたのである。極惡なる社會制度の下に、而かも最も侮蔑せらるゝ婦人と生れ、生くるより死するまで毫耗獨立自由の利權はなく、男子に屈從するに非れば女子は存立することが出來ないと幼少の時より教へられ聞かされ、而かも最後屈辱的頑弄も尚ほ敢て甘んせざるべからざるの時、諸君！是れにても尚ほ自己の精神を麻痺して男子の暴戻、社會の屈辱に堪へ得べしと思はるゝや、自由を想望し人格を尊重して止まざる自分は、何所までも自己の清淨を保たんと欲するのである、人としての利權を思ふの時いかで男子の暴戻に屈することが出來やうか、女子として自己を蹂躪せんとするときいかで女性を全然無視没却せる現社會制度の下に甘んずることが出來やうか、男子のために子を産むは決して女子本來の任務ではない、自己の諒するあつて自己の愛人の影を宿す、是れ心ある女子の壯擧とするところである、愛もなく戀もなく利權もなく唯男子の獸慾の犧牲となつて女子の個性を埋沒するが如きに、我が世界婦人の斷じてゆるさゞるところである。我々は自由の子である、而かも人である、人性の發展を祈り情意の尊むべきを知つて居るしかし生存の自由のない現社會に於て、どーして人性の發展が出來やうか、尊むべき情意は可惜長い間の習慣の犧牲となつてそが真相を描寫することは出來ないのである思へばげに呪ひの世である。

抑も我々が此世に生れて來たのは、決して男子の玩弄物にならむがためではない、人何所までも自己の個性を發展せしめて、人として將た女性として自己の價値を認めむと欲するのである、さるを何等の暴戻ぞ道德は吾人に教へて曰はく、『汝か弱き者よ、汝等が自由を欲し人權を主張せむとするは、畢生の最大難業にして、而かも女性としての天職に相背けるものなるぞ、生來か弱き汝等は唯男子の權威の下るぞ縮して無能定見唯夫れ子を産めば足れり』と、噫然る乎、唯子を産めば足れり乎、女子の天職は男子の暴戻に屈從して唯だ子を産むにあるなる乎、吾人恨むらくは如何に子を産む學をしてもかゝる馬鹿げた子を産むことを以て自己の本領とすることは出來ない吾々は屈辱に甘んじて自己の生命を保たんよりは、寧ろ革命の火中に投じて潔く逝かむと欲するのである。經濟上の獨立自由のない現社會に於て而かも總べての方面に屈從的規矩を設けてわれ〳〵を桎梏しながらあつかましくも吾々に向つて尚ほ家庭を逸脱する勿れ、善良なる國民を作るべき賢母たれ良妻たれと云ふが如き、あゝ何ぞ夫れ厚顔の甚しきぞや、試みに問はむ、諸氏が所謂女性學を考究し整せりと自ら任んずる所以のものは何所にありや、毫も吾々婦女子の真精を諒察するなく、徒らに無理非道なる女性屈從主義を以て、吾等の丹心赤情を律し去らむとするはそも何の意の存するある乎、諸氏苟しくも男子の面目あらば心を平かにして思ひても見られよ諸氏が口を極めて家庭の和樂を揚言し所謂賢母良妻主義を以て吾等を縛し去らむとするの時何ぞ知らむ、社會は極力家庭破壊の方策を取り女性墮落の道程を開きつゝあるではないか實際經濟上の獨立のない婦人が如斯屈從的道德に縛されて居て、どーして家庭の和樂が保たれやうか女子も男子と均しく人である、生命の存在に激つて居る生ける動物である、肉もあれば血もある、その肉もあり靈もある動物が欲求の自由を想望し、人格を護守して止まざるはまた當然のことゝである、何も暴逆なる男子の使用に供すべきが如き徒らな機械ではない、いかに意氣地のない女子でも、かう一も二もなく頭を抑へつけられては到底默つて居るものではない彼等にしても一度自己の境遇の悲惨を自覺したなら、此所には唯[illegible]家庭の逸脱家庭の破壊あるのみである、醜惡な、男子の腕に夢を結ばむよりは、寧ろ孤獨淋しく自由を味ひ革命を語ることこそ、吾々人と生れた生れ甲斐がある。

オヽ士君子を以て自ら任ずる世の[illegible]宗教家道德家諸君！諸君が女子のために貞操論を説かんとする時、先づ第一に現社會を破壊せよ、貞操を破るべく作られし現社會に於て、幾多犧牲の出るのは必然で止むを得ないところである、諸氏にして若し真に女子の家庭を逸脱せむことを恐るゝならば、願くば家庭を逸脱すべく作られし現社會制度を絶對に破壞せよ、破壞はやがて建設の到來すべき先聲である、革命てふ大痛棒を以て現社會を破壞せむ時、彼等幾多の陥民は此革命の大痛棒に依つて、始めて自己の痛傷を感ずるのである、法律の關鍵も、道德習慣の防壁も毫も[illegible]ない此痛棒！これやがて天下の陥民を覺醒救致すべき一大方策である、革命は吾等の生命である、破壞に我等先務の一階段である。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「追放」に就て

小野吉勝

私は今或女學校の教師を勤めて居ります。一日私が圖書室に居りますと一女生が來て云ふやう、先生に眞面目に聽いて戴きたい事が御座いますが、いつお閑暇ですか」と、私は何事かは知らねけれど自分の生徒であるものですからそれでは、幸ひ明日が日曜ですから午後入來つしやい」と約束しました。

翌日彼女は定刻に參りましたので、私は二階の書齋でもあり寢室でもあり且應接室でもある六疊の間に通しました、座定まるや彼女は突然『先生、あの、奥樣はお在でゝすか………』。

私は腦天から冷水を浴せかけられた樣に悚としました。想ふても御覧なさい、孤身此暗影天下を漂浪せる私にとつて、彼女が此一言は何たる意外の感を起さしめたであらう、來るや否や頭からこんな事をぶつかけられては、小膽の私、いかで赤面せないで居られやう、呆氣にとられたが併しながら自分は「先生」であることに心附いたものですから、いと嚴かに「いゝえ、御覧の通り未だ漂浪生活を送つて居るのです『何故またそんなことをお聽きですか』。私のまだ言ひ終らぬうちに彼女は、いとゞ失望したる樣にて『あゝそれでは噓でしたか、折角思ひに思つてお訪ねいたしたのですが、それでは最早何も申上げますまい！』失望の態いよゝ著るかりければ、私は心に「はゝあ、追放だな」とすぐ氣付いたのでしたが、態と空とぼけて『あなたは妙なことを仰有いますね、奥樣があるの、それでは嘘だのと一體何の事ですか』。羞みながらも彼女はいと眞面目に……餘程ためらひし後やつと……『先生、實は私はまだ讀みませんでしたが級の方がお讀みになつたといふので聽いたのですが、先生が『世界婦人』にお寄きになつた「追放」の一篇は、あれは先生の眞實じやなかつたのですか」。『あゝ、あれですか』、私の胸が落ちついて來ると共に、聲がはづんで『えゝ、「世界婦人」の記事なんですか、あれは事實ではないのです、一囘の小說です、言はゞ思出を書いたばかりです』。『あら厭だ私……』彼女は愈絶望に陷つたらしかつた、が、やうやう決心したもの〻如く語り出でた『先生、實はあの記事を眞にうけて私は殆んどこゝ一週間計りといふものは、毎夜床の中で考へ通しました、それは私の平生考へて居たことを、丁度此機會ですから先生に申上げやうか、でもまだ少女の癖になど、先生がお取り上げにならなかつたら何うしよう、だと言つて私の思つて居ました所を先生が御實行なさつたんですから、非常な味方を得たやうな感じが致しまして、所詮申上げずに自分の胸に秘めて置くことは大變苦痛に感じて來たものですから、愈々と思つて私は自分の考だけを纏めて今日かくはお邪魔に上つた次第です』。

『あゝそうでしたか、それは態々よく來て下さいましたね、今朝ほど明後日の卒業證書を書いて仕舞つて仕事がありませんからまあゆつくりお話いたしませう。實はね、あれは今年の夏、結婚した友人を訪ねやうとして出掛けました途中、ふとあの趣向が浮んだものですから早速それを書き連ねたのです。言はゞ小說まがひの樣なものですが、決して空想ばかりじやないのですての憫むべき新平民に對する同情、如何にかして彼等を自覺に導きたいとの信念は始中終私の胸に燃えて居るのです。此同情信念がついあんな記事となつて表はれたので、彼の事は實際問題ではありませんが、あの精神は決して噓偽りではないのです。四民平等を唱へつゝある此新らしい社會に於て、未だに厭賤視せられ擯斥せられて居るのを見ましては、彼等に對して氣の毒なよりも寧ろ世の中の冷酷な慣習が憎らしいではありませんか」。彼女は私を見上げながら沈痛な語調を以て『そこでネ先生、私が是非先生に聽いて戴きたいと存じますのは。ね先生、世の中の人が何故あんなに弱い者ばかりを虐めるのでせう、彼等だつて同じ平民ですもの、人間に異りはありませんわね』。二十歳あまりの未だうら若い少女の口から斯んな眞面目な、斯んな嚴格な、而かも優しい斯の樣な立派な言を聽かうとは、誰れが豫期して居るものですか。私はもう唯感心して仕舞ました、のみならず我が成女學校に斯かる志操貞剛な生徒が居るのかと思へば、身内がぞくぞくする位に嬉しかつたです、で私は其話を促がしました、彼女の眼はやゝ潤んで見えた、胸中何等の悲哀をか秘めたる?。やがて語を繼いで『私が未だ郷里の小學校に通つて居りました時でした。其學校に一人新平民……郷里の方では新平民のことを穢多と申します……その新平民の子が入學しました。所が誰れ一人として其子と遊ぶものなく、口を利くことさへ致しませんでした。それならば未だいゝのですけれど、終には打つたり蹴つたりそれはそれは始中終虐められ通しでしたが、先生も先生で之を抑へることはしないで、見て見ぬ風をして居る樣な次第です。私はまだ當時は思慮のない子供でもあり、且つは女の身ではありましたが、この男の子が同輩から虐められるのを始中終傍で見、見て知つて居りながら見ない風をして居らるゝ先生のことを聞くにつけまして、私は心から氣の毒で堪りません。そこで私は竊かに其新平民の子に肩を持つようになりまして、之を慰め勵ましいたしました。猜忌深い同輩ともの事ですから、殊に男と女とが親しくするのですから、すぐ良からぬ噂を立てまして、何にとか角とか云つて私を批難し出しました、私は行きませんでしたけれど私は、そんな事に頓着しないで彼の男に同情して居ました。這般の私の心配恐怖は一通りではありませんでした。當のことを思つて寢床の中で獨りで泣いた夜があつたでせう、でも私は少し強情な質ですから、自分の善いと思つたことは他の人が何と言つたつて構ひません、どしどしやりました。

この樣にしてお互に小學校も卒業いたしました。私は近くの女學校に入り、其子は縣の師範學校に入學いたしました。所が又もや其所でも同輩に虐められ擯斥され、あらゆる侮辱と輕蔑とを受けましたが、忍びに忍び、堪へに堪へて三年級になりました。あと僅かにして卒業出來るのでしたが、今年春病氣で亡くなりました。丁度私が東京へ參りました後でしたが、私熟々思ひますのに成程彼の人は病氣で亡くなつたのでせうけれども、病氣になつたのは虐められ虐められして、虐め殺されたのではなからうかと思ふのです。實際氣の毒なと云ふ同情の念と彼等同輩の冷酷無情を恨む心とが、それからといふものは始中終渦卷いて私の胸は解けません。ですから私は繊弱き女の身ではありますけれど、彼の人達のために幾分かなりとも眞面目に盡したいと思つて居りました。

所へ先生が、世間から輕蔑され擯斥せられて居りますあの階級の人と御結婚なすつたと聞いたものですから、嬉しいやら心强いやらで一圖に眞實とのみ思ひ込みまして實は斯んな次第で參つたので御座います。こんな事を申上げたら或は先生が少女の癖に生意氣なとお思ひになるかも知れませんが、之が私の眞の心持で御座います』（未完）

哀歌

國木

一

人あきたらず
我れ煩ふ
虐僞に非ずば
うつせみの世や

二

人のつれなさ
世のあさけりも
弱ければ我れ
悲しさに堪へず

三

道のさとりや
神のめぐみや
强かれとこそ
我れにせまり

四

强かれと云ふ
心あさまし
生きたる人に
冷たかれとは

五

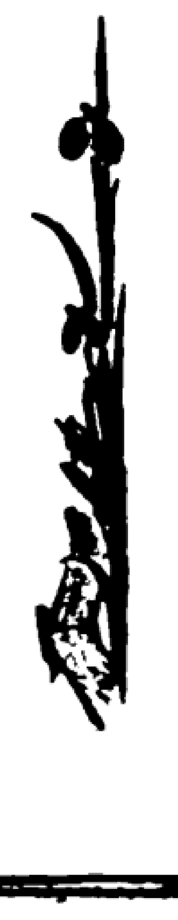
浮世と我れと
か〻わり深し
人皆と我れと
とはにはなれじ

六

さあれまことは
天つみ國の
ものと覺えて
虚僞に住む世ぞ

七

あだなる情け
うれしとて泣き
くやしき憤りに
哀歌をとなへ、!。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

伊藤中將姦通觀

内山愚童

福田女子足下はや今年も十五日を余すのみと云ふ多忙の時とはなりました、二十號の世界婦人、只今拜見、足下が天の使命を奉じて暗黑なる婦人界に光明を與えらるゝ行動には、僕等赫顏の至りであります

聞けば年末に一月號を出さるゝとのこと定めて目下の問題たる、中將姦通事件も、諸先生の快刀亂麻の新解釋が、紙上に於て讀者に見ゆることゝ存じます

いかゞですか、僕の姦通觀をも紙面の余白に載せては下さらぬか、敢て是非にとも申さぬ、とるべき處あらば載せられたし

僕の信仰を卒直に申せば、倫理の辭書から孝を去り忠を捨て其上貞と云ふ文字をとり捨てゝ、世は初めて天國を見ると云ふのでありますから、今回の姦通事件も世の資本家新聞で中將を一人いじめにするのと、一寸毛色が違つて居る

コウ前置きをして、極簡單に一人々々に短評を試みて、世の識者と云ふ歴々に問ふことにしやう

可愛想なる陽一、信仰なき者は哀れなるものかな、私有制度の迷網を切り捨つることが出來ないで、己れの妻であるとの迷信が、こんどの事件を引き起した者であるがよし裁判の結果、陽一の勝利となつて見た處で、陽一其者に何程の利益がある、お原が中將に賣つた愛情を取返すことは、よもや出來はせぬであらう、悲しいかな陽一、汝は今に於て妻は私の所有であると云ふ迷信を捨てゝ、愛情の繼續する限りに於て、夫婦たるべし、夫婦の一方何れにせよ、愛情の他に移りし時は、これ自然の離別と思ふて、此間に人意の私心を用ゆべきでないと云ふ、信仰にいるべし、茲に於て女は初めて苦なる此世界より脱れて天國の人となるべし、もし然らざれば永却の墮獄は免れずと知られよ

現社會に捕はれたるお原、今回の姦通事件に於て問題の中心たるお原よ、汝はさきに中將に性交を申込まれた當時、何故に陽一と離婚して、しかして後に應せざるや、もし汝が一週間の猶豫を中將に願いしと云ふ、其一週間に此考が發つたならば、今回の事件は起らなかつた者を、さりとは云へ汝も亦時世の子なり、何人も今日世に於て虚榮と生活の奴隸でない者はない、汝が中將の妻となる見込のない以上は、陽一と離婚してまでも中將と愛を共にせんとの覺悟は出來まし、之を思ふにつけ現社會の私有制度は咒ふべきものではないか、汝をして今日の運命に落したる、此私有制度を轉復する爲に、汝が終身の全力を注げよ、これ汝をして今日の穴に落せし仇を打つ者なり

愚なる中將義五郎よ、僕は汝が今回の行爲を罪惡なりとして惡む者ではない、併しながら、汝も亦社會と云ふ滑稽なる制度の網を切り破ることが出來ないで居る。愚なる者たるを免れない、今回の事件などは、汝が同役間には、事珍しきことではない、金錢の自由なる爲に墮落する者と、餓ゆるが爲に墮落する者とを以て、滿ちて居る今日の社會を、薄ぺらな黑幕を切つて落せば皆それである、然るを千載一遇の仇にでも遇つたやうに、汝を攻擊する世の新聞記者なる者の馬鹿さ加減は吹出さずには居れぬそれと同時に、こんなつまらぬ社會制度に縛られて、休職までさせられる汝も亦愚なことではないか、僕は思ふ、汝が今回の事件は、天が汝をして此の馬鹿氣たる社會を破壞すべく命ぜられたのではありまいかと煩悶することを止めて、沈思默考せよ、煙の如き名譽と、泡の如き利益とを爭ひつゝある今の社會は、早晩滅亡の運命を有して居るではないか、名譽何者ぞ、財產何者ぞ、そを爭ふ御主人公なる、自身それ何者ぞ、徒に煩悶するを止めよ、煩悶するを止めて晩餐後杖を引いて、谷中の墓地を逍遙し見よ、茲に明なる福音に接せん

かくして汝は新光明を得て、劍を持つて得たる今日の地位よりも、之に倍するの榮譽に與らんかな、煩悶する勿れ、進んで汝が天の使命を全ふせよ

新年御進物用

ベツレヘムの厩　富田了山君譯　定價凡二十五錢　郵稅八錢
右は有名なるバンダイク氏のフォルスト、クリスマスを譯せしものなり

曉天　定價凡二十五錢　郵稅四錢
本書はピーブ、オブ、デーを譯せしものなり

童蒙基督傳　定價五十錢　郵稅二錢

ジヨウ、コール　丹野フサ子譯　定價二十錢　郵稅四錢

通俗天路歷程　日島冷泉君著　定價二十錢　郵稅二錢

救の話（ストリ、オブ、サルベーション）　英文　コルチス夫人著　定價四十錢　郵稅四錢

最近思想と基督教　ケーベル、浮田、小崎海老名諸先生講演集　定價五十錢　郵稅六錢

兒童の宗教　アトキンス氏著大谷君譯　定價四十錢　郵稅八錢

日曜學校教授法　トランベル氏著櫻井成明君譯　定價三十錢　郵稅六錢

七日間　シエルドン原著　美山夫人田中榮子兩女史共譯　定價二十錢　郵稅四錢

みあしのあと　シエルドン原著安孫子貞次郎君譯　定價三十五錢　郵稅六錢

埃及及聖地旅行談　青山學院教授山田寅之助先生著　定價五十錢　郵稅八錢

平和の福音　佐藤廣吉君著　定價四十錢　郵稅六錢

人の運命　神學士田中達君譯　定價廿錢　郵稅四錢

日々の力　根本正君譯　定價布製五十錢紙製卅五錢　郵稅六錢

歐米女子立身傳　根本正君譯　定價四十錢　郵稅八錢

酒禍の實驗　島田三郎君演說　定價一册五錢五册以上一割引　郵稅三册迄二錢

理想の紳士　峰上賢達君著　定價廿五錢　郵稅四錢

舶來の泉筆　定價五圓より廿五圓迄各種

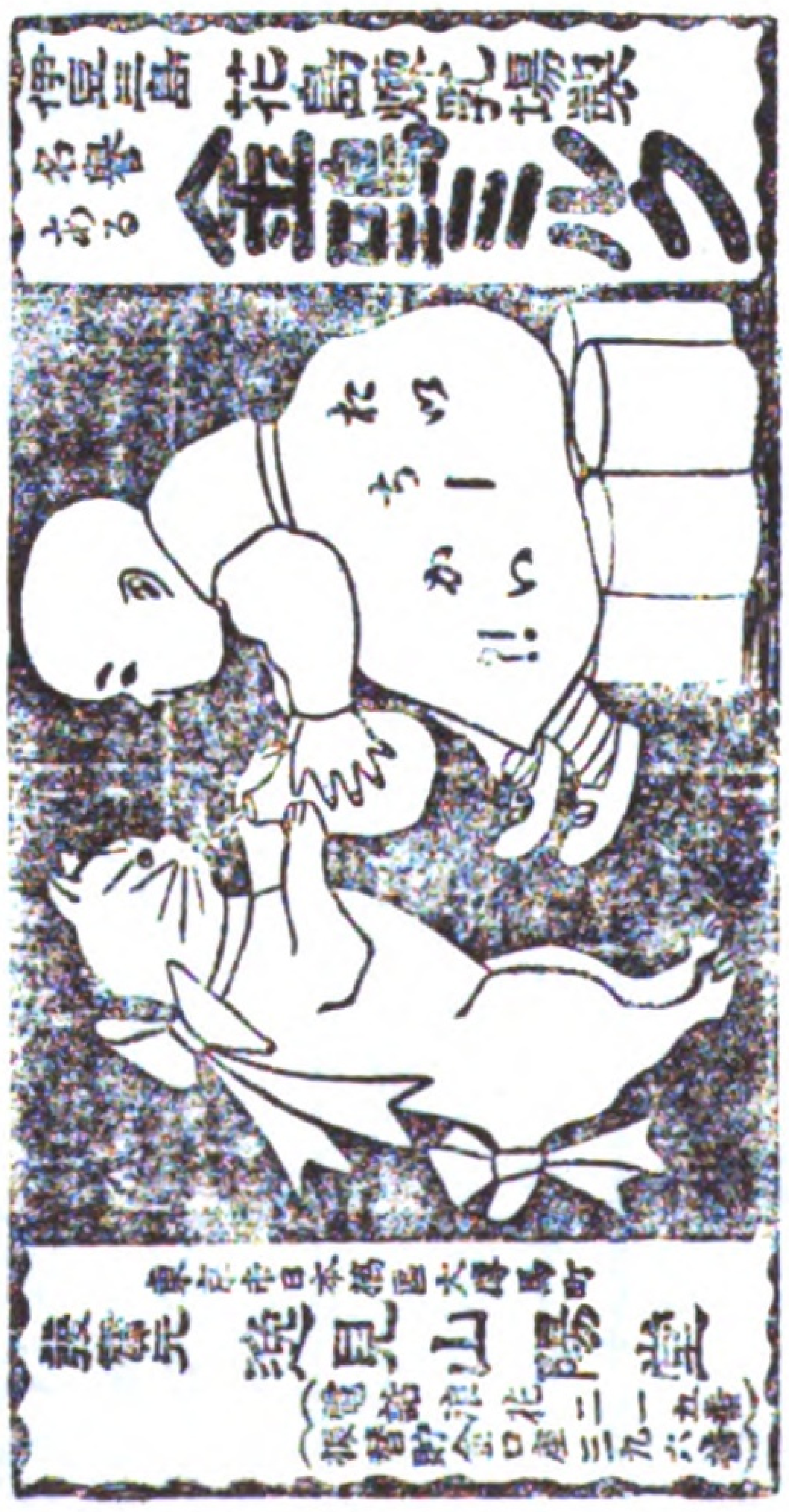
キリスト、マリア、及エンゼラスの寫眞　定價二十五錢　郵稅二錢

東京市京橋區銀座四丁目一番地　内外書肆　教文館　電話新橋二一二六番　振替貯金一一三五七

謹賀新年

體操及運動器械
生理學模型
博物學標本
樂器及教育品
製造販賣

東京市本鄕區本鄕五丁目
美滿津商店
電話下谷八四五　振替口座七六〇



恭賀新年

天賞堂本店
天賞堂神田出張所
天賞堂横濱出張所
天賞堂大阪出張所
天賞堂長崎出張所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新紀元晩餐會

小野吉勝

明十日午後五時半「新紀元晩餐會」例會を開く、安部木下兩氏も必ず來會の筈、久し振りにて淸談雅話多かるべければ萬障繰合して面を見せよと神田女史から言つて來た、生憎十二月十日は午後より我が成女學校支那女學生部師範速成科の卒業式があるので、其あと片附て晩餐會に出るのは遲くなるだらうと思つて居たが、案外早く式が濟んだので、我が同僚で平生安部先生に心服して居る相良長雄兄を同道して豫定時刻に世界婦人社に着いた、夏休この晩餐會で安部先生にお目にかゝるのは初めてゝもあり、且意外にも木下兄さへ來會せらるゝのを衷心よろこんだが、さてこんな火曜日の晩に人が集まるだらうかと僕は私かに危ぶんで居たが、時のたつにつれて來るは來るは大あたり、

ずつと食卓を圍んだ顏觸れは木下兄の右隣に安部先生それより右に數へて赤羽逸見兩君、お隣りには神川女史、神崎、柴田、景山、福田女史、大手、藤井、戸恒、相良の諸君僕は木下兄の左にありて環をなせり、

いつに似ぬ此晩の馳走は風味あるライスカレー、乙に氣取つた八幡卷、キャベツは新紀元晩餐會に必須欠くべからざるものかの樣、風味の殊にすぐれたるは女史及此家に傭はれつる婆さんのお手柄である、

食後、僕は談話の火蓋を切つた、それは別項にあるわの「追放に就て」てふ快心の事實談である、尋で僕は我が同僚相良兄を紹介して、同兄が身親しく新平民なる一教師のために死を堵して盡されたる經歷談を聞くを得たり斯て漸く興に入り談は之れより階級問題に入つた、安部先生曰く、世の中は寧ろ滑稽なり、表面貴賤貧富の懸隔甚しきに拘はらず、裏面貴富兩級が使用せる言語の相聯環せるを見ずや、所謂車夫馬丁に入印(ピン)熊印ありて以て他を呼ぶ、然るに近頃は所謂成り上りの貴族富豪に、其女中が令孃を呼ぶにお姫樣を以てす、お姫樣の數ある時は則ち之を區別せんがために名の下に「印」てふ符號を加へて松印樣、花印樣と呼ぶなり、時にはキ印も飛び出だすべく寔に滑稽なる矛盾ではないかと、一座哄笑

ふとしたる事より談は兵役問題に入つた軍隊改革の實行は現行の徵集猶豫制度を廢し、代議士の子弟たりとも洩らさず徵集し得る曉ならでは成就せなからう、現在の軍隊內に拉し去られてあらゆる虐待を受けたる其愛子の訴へを聞いたならば、如何に人の子を庇とも思はぬ腰拔議員でも、其子の可哀さに引かれて軍隊改革の叫びをなすであらう、それまでは我等平民の子は猶永く所謂紳士閥の爪牙となり、彼等が私慾の踏臺とならねばなるまいとの說も出た、將來絕對的非軍隊主義及思想の皷吹者宣傳者は今日現役を終ての一年志願兵であらう、彼等は知識あり才能あり品格あり理想あり以て胸中磅礴たる自由の氣を湛ふ、然るに軍隊內にありては人格は蔑みせられ、理想はぶつ毀され、尊むべき人間の自由は蹂躪せらる、加之不法の亂打に皷膜を破られ、腕を折られ、眼を盲せられ、あらゆる靈肉上の苦痛を蒙り、其贏ち得たる所あゝ果して何ぞや、

語るものは我を忘れて肘を張り拳を握り、聽く者おのづから眉あがる、疾く來よ非軍隊運動の曙光、

かくて八時、谷中村問題に移る、衆皆襟を正す、谷中廢虛の殘留氏が移住地として田中翁が撰定したる惠下野の地は縣廳之を許さず、さればとて他に之れに應はしき地あるにあらず、第二次强制執行の至らざる間に今一應吾が同人の被害地訪問の擧を遂げばやとの議起るや、一も二もなく決し殘るは唯出立期日の問題なりしが、之れも余を除いては安部說の十九日午前七時半と決したり、演說會は後日時期を見て開くこと、なして一先此問題を收めたのである、

尋いで談は所謂社會黨連中の分派爭ひに就いて甲論乙駁となつたが、結局吾が同人は殆んど一に彼等の見苦しき態度を悲しんだのであつた、彼等の大人氣なきを氣の毒に思つたのであつた、「社會主義者の面々は實に我儘者の骨頂である、大に自省しないで何の事業が出來ようかと」木下兄は喝破せられた「この失墜した社會黨の信用を回復するには寔に長日月の謹愼を要する、あゝ社會主義運動は十年遲れるだらう、之を思へば余は十年間の努力の徒勞に歸したるを惜むのみである」とは安部先生の悲痛の言であつた、吾が愛する新紀元の同人諸兄姉よ、願くはかゝる忌むべき問題に對しては、愈其の超然の態度を固くせよ、

この夜の如き數に於て料に於て實質に於て盛んなりし晩餐會は、一寸近頃稀れであつた、十時になつたので和氣靄々たる談笑の口を强いてつぐんで、さらばと別れた、

(十二月十二日記)

宮崎八百吉君譯
アウガスチン 懺悔錄
定價七十錢 郵稅八錢
肉慾の甘樂、罪惡の苦悶、人生の哀別離苦、花林孤影の大泣哭、而して後清亮なる聖徒的獨身生活、嗚呼是れ血あり肉あり良心ある代表的偉人の懺悔錄なり、明確不磨の見神在り、玲瓏徹底の默會在り、信者不信者之を讀んで其の自個寫眞鏡なるを知れ、
發兌 東京市京橋區尾張町二丁目 警醒社書店

腦病、脊髓病
神經病、精神病 專門治療
土地高燥 電氣治療
閑靜 マッサージ治療
田端停車場西二丁
東京田端 東京腦病院 電話下谷二三〇一
院長 後藤省吾

歯科治療 自午前八時 至午後十時
吉瀨歯科醫院
院主 吉瀨才市郎
東京神田須田町二十六番地(萬世橋內右横町)
●藥價手術料共半額
●貧困者施療

商店改築大擴張
カルタ歯磨は 口中にある諸種の細菌を殺します
カルタ歯磨は 歯牙のゆるみを緊縮するの効がある
カルタ歯磨は 口內の悪臭食物滓渣の腐敗を防ぐ
絹手巾種々
造花類種々
西洋小間物
カルタ歯磨は アルカリ性なれば口內醱酵を防ぐ
カルタ歯磨は 最も微細の粉なれば歯を磨耗せず
カルタ歯磨は 常用すれば口腔歯牙の諸病を防ぐ
東京市京橋區尾張町丁目八番地
光明堂
電話新橋二七六七番

ローヤル水ハ 最モ高等ナル最モ進步セル最モ名譽アル化粧水ナリ
定價 拾錢 拾五錢 廿五錢
ローヤル白粉ハ 最モ改良セル最モ優等ナル無害ナル白粉ナリ
定價 拾錢 拾五錢 五拾錢
發賣元 つやぶきん 東京銀座壹丁目 佐々木商店

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

隣の長屋

藤なみ子

私の隣は古ひ四軒つゞきの棟割長屋である、南の端の一軒は差配兼大家樣で、表から格子づくりの瀟洒した住居だが、他は一樣に白山神社豊川稲荷などの古ぼけた御札と共に、萬せんたく、身の上判斷、女髮結など折釘流の張札があつて見るから陰氣臭ひ家のみだ。……間數は四疊半に二疊が二間、臺所に便所と隣り合つて外に猫の額ほどの空地もない。表は往來で裏は隣家の高ひ壁に限られて居る、家賃は月に四圓五十錢。

私の家に近い、北の端の家には、ハンケチ内職の子持ちの女と、砲兵工廠の人夫に出る夫婦ものとが各二疊を占領して、四疊半には女工のお里さんと刷毛製造の老人と天ぷら屋の出前もちとが同居してゐる。

去年の六月頃まで四疊半はお里さん夫婦の專有であつたそうなが、丁度五月頃お里さんが妊娠したとしれた時、内縁の夫は何處にか姿を隱して仕舞つた……。自分一人さへ過すことが出來ないのに子供など育てられないと云ふのだそうな……。

臨月の大な腹を抱へてもお里さんはなほ砲兵工廠に通ふて居たが、十二月の始めお產の紐を解ひたので、赤兒を抱へて何をすることも出來ぬ。養育院へやれ、里子に出せと人びとに勸めるけれど、此兒に別れる位なら一思ひに死だ方が……と目出度いふ正月もたゞ涙にくれて居る。

刷毛製造のお爺さんも遂二三年以前までは日本橋あたりで、相應な暮しをして居たそうなが、息子が放蕩に身をくづして空知の監獄へ送られたので、老ひの身の心細くも其日の烟をたて兼て居る。

ハンケチやのお増さんは昔堅氣の姑に、樂しき鴛鴦の夢を破られて、今年六歳の娘と共に相思の恨みに沈むで居る。

出前もちの淸さんも人夫の倉さんも……ア、詰らねえ……と同じよふに溜息をつく……正月は天ぷら屋も商賣がなく、工場は仕事休業なので。

他の二軒の家からも……日給とりは休みはどつらひ事アない。……半月をどうして暮すつて云ふだい、口を釣にかけちやおかれめえ……など云ふ聲が聞える。

丁度元日の正午頃だ、大家さんの前には威勢よき車の音が止つて、意氣な姿が格子戸をくゞると、常には不愛想なお嬶さんが……オヤまあ……とかけ出して出る、料理屋からお誂がくる、香しひ酒の匂がする、御馳走つた女の笑ひ聲と共に春は此家にのみあるやうだ。

長屋中のものは云ひ合せたように……あーア……と溜息をつひた、そうして此樣なことを歌つて居る。

　もつべきものは女の兒
　娘もつたら藝者に賣つて
　うすのろ旦那の鼻毛をよましよ

大家の娘名はお春、三年前まで新橋のかはる、今は烏森春のやの女將……。

谷中村慰問記

去る十九日豫報の如く七時半の汽車にて下野國谷中へ向け出立しました、古河驛前の旅舍田中屋にて諸嬢より惠まれし被服類を十六戸に分ち持參すべく偏頗なき樣、一行諸氏環視の前にて分類し終りしは十一時頃なりし、夫より相携へて、諸所に散在せる網代の小屋なる十六戸を慰問したるに、皆吾々の豫想せし程の慘狀に非ざるも寒さは特に身にしみ幾許の夜具を重ぬるも暖氣は取れずとの事、併し皆各々其業に安んじ吾々一行に對して其土地の天產たる鮮魚や鰕をお茶うけに饗せらるゝなど、實に綽々として餘裕ある村民諸氏の態度に感措く能はざりき、此行につき遠方より態々小包御惠送下されたる平岡如雨氏と神川女史に謹んで感謝致します。此日天氣晴朗一點の雲なく暖さこと、小春日和のその如かりしゆへ一行は皆汗に濕ひし、特に木下兄と吾とは日和下駄を穿ちしゆへ、霜解けの田舍道は齒に泥濘詰りて殆んど千鈞の石を引きずる如くなれば、數々ステッキにて泥を落し一行に追ひつく始末にて中々に疲勞を感じたりし、十六戸を訪問するには四里の道程を行かねばならぬのです、東京の如き道ならぬ道程の四里は安部さんの如き健脚も多少お疲れなりしならん、道中鷲氏の面白き談話ありしも餘白なければ筆を擱きます

社　告

治安警察法改正の請願は昨年の通り、今年も衆議院なり貴族院に向つて呈出致しますどうか此賭易き權利の要求に對し、彼岸の火事視しないで、一人でも多く勸誘して下さい、何れ請願要書を至急調整致しますから、十枚でも、實費で買つて下さい。治安警察法第五條の規定は餘白なければ次號に掲載致します

共勵學舍生徒募集

教授科目 は國語、漢文、裁縫を主とし望みによりては家政、數學等をも教授す

教授時間 及教科書等は隨意但し日曜及祭日は休み

月謝 三科金一圓、一科金五十錢、束修金一圓

篤學者及學資なき人、事情によりて無月謝にて教授す

仕立物 の依頼にも應じ、普通商人より親切丁寧に而かも精々廉價にて御用務むべく候

本郷區金助町卅一番地
共勵學舍　西川文子　添田竹子

雜誌 **新紀元** 自初號至終刊十三部

基督教は靈界の社會主義、社會主義は物質上の基督教なりと信じて、靈肉合致の實現に志し、安部磯雄氏が冷靜なる論壇、木下尚江氏が熱血の才筆、石川旭山氏が深到なる筆致、其の他多くの着實なる文章、號を追ふて愈々潑溂、大いに革命主義を皷吹し、崎嶇を平げ、深谷を埋め人の道を直くせんとの大願ありしも終に十三號にして廢刊せり、今や殘部僅二十組ばかり書架に在り志ある人のため一組金壹圓參拾錢にて郵送す、希くば當世界婦人社宛にて御注文を給へ

謹賀新年

東京麴町區有樂町三丁目一番地　**有樂社**

東洋第一之漫畫雜誌

東京パック

元日發行　四卷　第壹號　一部定價十一錢郵稅共　十部前金一圓二十五錢

石井通商局長排日事件に關し米國に渡り歸來社員に語て曰く米國にては會ふ人毎に東京パックの談話出で實に其勢力人望あるに驚きたりと是れ何が故ぞ、蓋し政治外交經濟宗教教育發明家庭其他社會百般の問題を捕へ滑稽諷刺其妙を極め何人にも痛切に時事を解せしむるに外ならず東京パックは今や海外に向つて日本を代表する唯一の大雜誌なり試に見よ東京パックを問ひて知らざる人あらば其の人は内外人たるを問はず必ず時勢を知らざる全く時代後れの人なるを

新年第四卷第一號を發刊するに當り平素の愛顧に酬ひんが爲め新春創刊の左記雜誌一部を添ふ

大附錄　少年雜誌　**フレンド**

此雜誌は矢張り北澤樂天先生の主筆で全誌繪畫で色刷のおもしろき卅頁の雜誌であります一寸目錄をいふのわ◎フレンド◎自轉車の組立◎赤勝て青負けるな◎カメトカニ◎單語のけいこ◎よわむし兵隊◎ネボ大郎◎間違ひ繪さがし◎他十五六題右代價一部十錢なれ共一號に限無代

常識涵養天下第一

東西南北

元日發行　第一卷　第壹號　一冊十五錢郵稅一錢半　六部前金八十五錢郵稅九錢

有らゆる方面に於ける社會の進運を明かにし漠然たる内容の中に動かすべからざる文明發展の趨勢を指摘し繁劇なる事務家にも修養ある讀書家にも要求せらるゝ材料豐富記述簡明なる雜誌なり

當今の問題 は海の内外に於ける大人物花役者に傾聽し時事問題に關しては痛快なる解決を與ふ

科學と發明 は歐米最新の雜誌數十種中より材料を精選し圖畫を挿み紹介說明最も親切を極め

處世と修養 は時勢に順て然も時勢を指導し自覺の慧眼を照らして覺他の眞修を講ずる獨特の錦囊

内外雜纂 は海の内外百餘種の雜誌中なる最新の思潮最新の事項中精粹を拔きて一目瞭然

以上の外「海外發展」「世界の進歩」「衣食住」「前月小史」「東西日誌」「新刊論說一覽」等の諸欄あり

新年特別大附錄　其一、世界よりの通信（卅二頁の大讀物）　其二、社頭松（コロタイプ版四六四倍大）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

見よ天下超望の書

東京春陽堂初刷

市内各書籍店の肆頭に推し

後藤宙外氏主幹　新小說一號　實價弐拾五錢　郵税三錢
夏目漱石氏著　虞美人草　實價一圓弐拾錢　小包料拾弐錢
泉鏡花氏新作小說　草迷宮　實價七拾錢　郵税八錢
高濱虚子氏著小說　鷄頭　實價七拾錢　郵税八錢
二葉亭主人著小說　カルコ集　實價六拾錢　郵税六錢
幸田露伴氏著小說　さかつら　實價七拾五錢　郵税八錢
宮崎三昧氏著　日本豪傑譚　實價弐拾錢　郵税四錢
向陽斑山両氏編　家庭お伽噺　臨時實價拾六錢　郵税四錢

こゝに四海の船さすり探す君の春　紅葉

時代の要求により生れたるカメリヤは色白くきめを細かに艶を増し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の肌には殊に効驗著し

定價　大瓶廿五錢　瓶入十五錢
袋入五錢　小袋三錢
罐入十三錢

本舗　ライオン歯磨發賣元　東京神田柳原川岸　小林富次郎

松本樂器

◎ピアノ
◎オルガン

卸小賣　月賦販賣　賃貸交換　修繕調律

注意　新年ト共ニ本社ノ大發展ヲ祝スル爲オルガンハ壹割五分ピアノハ壹割ノ割引ヲナス　但右期限ハ一月三十一日限リ

◎ヴァイオリン　其他西洋樂器各種

當會社ハ江湖諸彦ノ御引立ニヨリ日ニ月ニ隆運ヲ加ヘ來ルニ際シ今回新ニ歐米ニ在テ意匠圖案ヲ研究セラレタル專門大家濱訓良氏ヲ聘スル事ヲ得、明治四十一年ノ新春ヲ迎フルト共ニ、音色優美音律正確ナル松本樂器ノ上ニ最モ一新紀元ヲ劃セントス仰キ希クハ舊倍ノ御愛顧ヲ垂レ給ハン事ヲ。

東京市京橋區銀座四丁目四番地
松本樂器合資會社　電話新橋二二九八番

謹賀新年

米國ムーデー氏聖書學館名譽校長神學博士アル、エ、トーレー氏著　新井正平君譯

基督者の成功

定價　上製四十錢　並製三十錢　郵税各六錢

世に一書出づ必ず其目的存す此書の出づ而も又其軌一也、新に基督教を奉じ直日一新其生涯の行路に於て成功者として起つに必要なる道程を示したる好個の侶伴指南車として基督者必讀の書なり
クリスマス新年の贈物に適す
弊店儀今回都合により左の處へ移轉仕り一層營務に勉勵仕度候間爾後は殊に御厚情の程奉願上候

東京市神田區駿河臺西紅梅町十二番地（御茶の水傍）
中庸堂書店
振替貯金口座六三三〇番

恭賀新年

東京市神田錦町三丁目
東京瓦斯株式會社

●木下尚江君著　下篇最新

靈か肉か

全二冊

定價各金四拾錢　郵税各金六錢

火の柱良人の自白に一の革命的思想を示したる著者が新生涯の處女作たる靈か肉かは今や出で、大成せり江湖の需を俟つ

●木下尚江君著　第拾九版出來

火の柱

定價金三十五錢　郵税金六錢

著者が主義信仰を宣傳せる文藝の處女作たる本書は好評聲裡に第十九版出來せり

●木下尚江君著　上篇第貳拾版

良人の自白

全四冊

定價上中下各三十五錢郵六錢續五十五錢郵八錢

世の青年に新曙光を仰がしむる著者が主義信仰の具體的說明たる本書は世の渴望に依り第二十版を發行す諸士乞ふ一讀せよ

●安部磯雄君著　第六版出來

理想の人

定價金二十錢　郵税金八錢

平民的道德を知り理想の人たらんとするものは本書に就け說述して餘す所なし

東京中橋　文榮閣　大阪　松本要

◎定價　△一部四錢五厘、十部四十二錢、二十部八十錢
△申込は總て前金の事、△郵税當方持

發行兼編輯人　東京府豊多摩郡淀橋町角筈七三八番地　神崎順一
印刷人　東京府豊多摩郡淀橋町角筈七三八番地　遠藤友四郎
發行所　東京府豊多摩郡淀橋町角筈七三八番地　世界婦人社
印刷所　東京神田區鍛冶町廿四番地　博眞堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY